

今年の夏は突然訪れ、いつまでも長く居座るそうです。水分補給と一粒の梅干を用意して、熱中症にならないように気を付けたいものです。

夏は髪のだメージ原因がいっぱい！
当然コンディショニングにも関心が向くのではないのでしょうか？という訳で、今回は全編にわたり少々込み入った内容になります。しかし、エイジングケアにとっても大切な内容なのでしっかりと読みください。



(※一部かすのすけの化粧品評論を参考にしました)

皆さんはコンディショナーとトリートメントの違いってなに？

思っている方が殆どではないでしょうか？実は両者にあまり違いはありません。強いて言えば、前者は主に表面・後者は内部の修復を担っています。シャンプーに使用される合成界面活性剤(洗剤)の刺激については議論されることが多く、皆さんも良くご存じだろうと思います。しかし、柔軟剤(トリートメントクリーム)の刺激については殆ど話されることが無く、ご存じない方が多いのではないのでしょうか？実は大前提として、『洗剤』が刺激物である事と

同様に『柔軟剤』も刺激物なのです。カチオン界面活性剤(CMでも話題になっています)は生体への毒性が強く、皮膚吸着して刺激になる成分です。



トリートメントクリームに用いられているカチオン界面活性剤は、洗剤と比較しても経口毒性が高く、残留性が大きいという意味でも皮膚への刺激性が懸念されています。また、主成分として用いられる「セタノール」や「ステアシルアルコール」は旧表示指定成分にも指定されている原料です。カチオン界面活性剤の代表格セトリモニウムクロリドの刺激性は消費者間ではほとんど語られることがなく、多くの人は無意識に「安全」という認識を持っているのではないのでしょうか。しかし実際に使用されているその毒性は、市販のシャンプー剤に使われているラウリル硫酸Naの100倍の毒性が強いのです！毒性が強いという事は、簡単に言えば人体に対して「反応しやすい」ということ。例えば生物の体内外でいろんな組織と反応して別の物質に変化させて活動を阻害したり、ヒトの皮膚などの細胞膜はカチオン界面活性剤によって破壊されてしまうことが考えられます。他にも毛髪や皮膚を構成する「ケラチン」と呼ばれるタンパク質にも吸着しやすく、電荷を与え

てタンパク質の構造を破壊(肌の老化)します。また、このような性質から強力な「殺菌作用」も持っており、シャンプー類が結構簡単に腐敗するのに対して、トリートメントクリームやリンスがほとんど腐敗しないのはこのカチオン界面活性剤の性質とも言えます。

シン

シャンプーの界面活性剤は水で流れってしまうのに対して、トリートメントクリームの活性剤は生体の脂質に吸着して残存し刺激要素になります。そして飛躍的に毒性が上昇してしまうのです。あまり驚かしすぎるのも何ですが、実際のところは、余程の敏感肌でもなければ通常の配合量(メーカーも良く知っている)で最小限にしている)ならばあまり気にする必要はありません。但し、濯ぎが甘い・頭皮に塗布しているなどの間違った使い方の場合は何かしらの問題を生じてしまう可能性があります。敏感肌を気にする方や頭皮の衰えを感じている方はトリートメントそのものに注意を向けたほうが良さそうです。

総

意味として、髪を滑らかにするという正しい使用量を守り、塗布後は髪に馴染ませて放置し、その後良く濯ぐこと。そしてエイジングケアの為、決して地肌には付けないことに心掛けて下さい。



※植物性で優しい・・・？

近頃「ボタニカル」とか「オーガニック」と言うワードを良く耳にします。実際何がどう良いのか分からないけど、なんとなく良さそうという理由で使用しているという方多いのではないのでしょうか。そもそも**ボタニカルとは単に植物由来のもの**という意味で**オーガニックは世界統一基準という明確な基準があり化学肥料や農薬を2年以上使用しないで栽培した有機栽培の植物を指します**。要するに、オー



ガニックは「ボタニカル」の一種なのでボタニカルだからといってオーガニックとは限りません。しかも、**ボタニカルには明確な基準は一切無く、植物由来の成分が一つでも入っていれば**

硫酸系の洗浄剤や刺激の強い防腐剤が入っているも「ボタニカル○○○」と称して構わないのです。「ボタニカルIIナチュラルマイルド」そんなイメージがあるかもしれませんが決してそうではないと言うことを解っていたほうが良いでしょう。ただシャンプー剤と言われるよりも、ボタニカルシャンプーやオーガニックシャンプーと言われた方が良さそうだなと思いませんか？ メーカー

側も消費者の興味をそよるような名前を付けるわけです。

確かに植物からは、様々な体に良い成分や薬効が見つかっています。また、そこからの清冽なパワーを享受できま

す。しかし、哺乳類であるヒトの体を何とかするにはやはり動物性素材でしか治すことが出来ません。髪も肌も「ケラチン」と言うタンパク質でできており、ダメージは同じ素材でしか治療ができません。安心なイメージの「植物性」も大事ですが、これからも「ケミカル」の大きな効果をキッチンとお伝えして行きたいと思います。

残留アルカリをご存じでしょうか？

今やヘアカラー人口はとて多く、一度でも経験のある方が80%を

超えるとか。しかし、ヘアマニキュアやヘナカラーは問題ないのですが、いわゆるヘアダイと言われているヘアカラー、お店で施術するものご自分でなさるものと2種類があります。その仕組みは1剤（染料）と2剤（過酸化水素）をMI×して髪に塗布すると、1剤に配合された染料が2剤で酸化反応を起こし髪の内部分で発色し染まります。毛髪を染めるのに大事な役割をしてくれる一方、その成分が毛髪や頭皮に残ってしまうことがあり、これが**残留アルカリ**と言います。



頭皮がかゆい・バサバサギシシする・色落ちが早い等、これらが一つでも気になるとしたらそれは**残留アルカリ**の仕業が考えられます。ヘアカラー剤は髪の内部で反応をしている為、シッカリとシャンプーをしたつもりでも内部のアルカリ迄はなかなか除去できません。これは頭皮でも同じことで、角質の奥に入り込んだ**残留アルカリ**はすぐには取れないのです。毛乳頭を侵食して不活性にし、細毛・抜け毛の原因を作ります。勿論、髪も同様にもろくなり、元々持っている成分がシャンプーの度に流出してバサバサギシシの髪になってしまいます。

更

に頭皮がダメージを受けると老化が促進します。ヘアカラー後のアフターケアが重要なのは、これらの影響を限りなくゼロにして頭皮・毛髪環境を整えることを目的にしています。当店の

ヘアエステコースは、**残留アルカリ除去に2種類の素材を使用しています。①グルタミン酸Na②ヘマチン**。前者は旨味調味料の主成分のグルタミン酸をNaイオンで水溶化した酸性アミノ酸、後者は私達を含め動物の赤血球中にあるヘモグロビンの中に存在し、ヘアケア成分として非常に優秀な効果を持つ素材としてシャンプー等に多用されています。毎日で気になる事はまずご相談下さい。